

奈良県広陵町 「中小企業の生産性向上」に向けた政策提案

- ・奈良盆地のほぼ中央に位置する広陵町は、大阪市へ直線距離で約30kmと交通の利便性も高いことから、ニュータウンの開発以降、ベッドタウンとして発展。現在の人口は35,000人で奈良県の町村の中では一番人口が多い町である。
- ・古くから靴下の生産が盛んで、生産量日本一を誇る「靴下のまち」であるとともに、食品用容器や医療用器材を製造するプラスチック製品製造業も集積。
- ・また、町には古墳や文化遺産等が点在し、「竹取物語」ゆかりの地として観光振興にも取り組んでいるほか、特産野菜の「なす」や「いちご」等の生産にも注力している。
- ・しかしながら、こうした町の強みを十分に生かしておらず、町のさらなる活性化のためには、町内の中小企業の発展や地域資源を活用した稼ぐ力の向上を図っていくことが重要。
- ・こうした問題意識のもと、広陵町の「中小企業の生産性向上」に向けて講じるべき施策について、産学官金が議論するワークショップを実施した。

■実施概要

【日時】平成31年2月7日（木）13:30～16:30

【会場】広陵町役場 3階 大会議室

【テーマ】「奈良県広陵町の中小企業の生産性向上」

【参加者】31名

（広陵町長、副町長、町職員、商工会、中小企業家同友会、靴下組合、奈良県、大学、金融機関等）※傍聴者（近隣市町村等）約40名

【有識者】

中央大学総合政策学部 教授 細野 助博 氏

【使用したRESASのデータ】

地域経済循環図／全産業の構造／稼ぐ力分析 等

【その他の利用データ】

環境省「地域経済循環分析自動作成ツール」
「広陵町中小企業・小規模事業所実態調査」 等

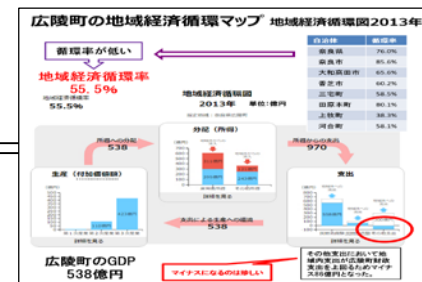
■代表的な分析手法

- ・地域経済循環マップにより、広陵町外へのお金の流出や広陵町外からのお金の流入を把握。
- ・産業構造マップにより、広陵町の主要産業の特徴を把握。

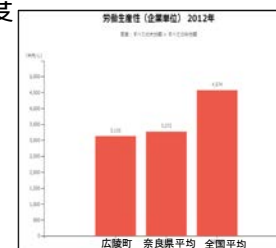
■分析結果

- ・広陵町の地域経済循環率は55.5%であり、域外から流入する所得に対する依存度が高い。
- ・付加価値額を見ると、地場産業である靴下（繊維工業）やプラスチック製品製造業の割合が高い。これらは、影響力係数や感応度係数、純移輸出額も大きく、地域の取引の核となる産業であることがわかるが、靴下産業は製品出荷額、常用雇用者数が減少し、衰退傾向にある。
- ・全産業の労働生産性を見ると、全国、県、人口同規模地域のいずれと比較しても低く、域内の労働生産性の向上が課題。

【地域経済循環図】



【労働生産性】



【付加価値額】

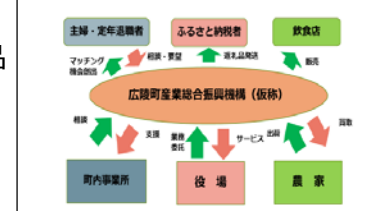


■施策提案：町をまるごと商品化する「広陵町産業総合振興機構（仮称）」の設立

⇒ 地域のスペシャリストを活用した中間支援機能（新規取引先の開拓や新商品開発、「広陵ブランド」製品づくりにあたっての異業種間のマッチング等）により、生産性を向上させる。

産業振興のほか、農業振興（販路開拓による収入の安定化）、観光振興（かぐや姫など強みを生かしたプロデュース）も含め、町をまるごと商品化！

広陵町産業総合振興機構（仮称）イメージ



広陵町職員による発表の様子



ディスカッションの様子